

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、ケアサービスの実践に繋がっている。ただ、事業所としての理念は以前在籍していた職員が作成したもので、現在の職員が自らの意見で作成していきたいと考えている。	地域密着型サービスとしての『馴染みの関係』・『人権の尊重』という理念を開設当初に職員が打合せして作成し、現在も継続して理念に掲げています。新入職員には理念の説明を研修時に行ないますが、定期的に理念を確認する機会は設けられていません。	開設から10年が経ちましたので現在の職員と理念の見直す機会を設けたり、定期的に理念を確認する機会も設けられることを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	極近隣の方との挨拶や地域の行事への参加、また毎月の広報誌の呼びかけに応じての地域の方がお茶飲みに来られたり、ペットを連れて遊びに来られたりする程度の交流に留まっている。	町内に事業所の広報誌を回覧し事業所の内容を知っていただいているほか、防災訓練、どんど焼き等案内を頂いた町内行事には参加しています。また、地元の小学生が事業の一環として見学に来てくれたりと地域との交流を図っています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、事業所に居られる認知症の方々の生活については地域の方々へ広報誌を通じて情報発信している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、委員の方々から頂いた意見をその後のスタッフ会議にて検討し、サービス向上に取り組んでいる。	包括支援センター、町内会長、民生委員、ご家族代表などに参加していただき現状の報告を行っています。運営推進会議で頂いた意見は職員会議で話し合い、取り入れるべき点は取り入れるように努め、サービスの向上に向け取り組んでいます。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	上越市高齢者支援課の担当者の方に運営推進会議への参加をお願いしたところ、多数の事業所があるため対応できないとお話を頂いた。事業所の防災について意見を頂くため、1回のみ参加を頂いた程度に留まっている。	昨年度は1度、運営推進会議に市の担当者に参加していただきました。また、地域包括支援センターの職員には運営推進会議に出席していただき、困難事例や相談がある場合は法人本部に確認をとり対応しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っていないが、日々のケアの中で利用者の拘束に繋がらない様に取り組んでいる。言葉の拘束が課題となっている。	母体施設にて検討委員会があり(ホーム職員も参加)身体拘束に関する勉強会にも参加しています。また、事業所としても拘束しないケアに取り組んでいる。管理者は言葉による拘束も含め、日々のミーティングなどを活用し職員に徹底しています。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について全職員が周知しておらず、学ぶ機会も持たれていない。ただ、虐待防止についての意識付けは普段の会議等で触れており、注意は払っている。	新人職員研修時に身体拘束と合わせ虐待についても研修を行っており、日々のミーティングなどを活用し職員に都度徹底をしています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は管理者研修にて学んでいるが、制度につて全職員が周知はしていない。今後、学ぶ機会を取り入れていく考えである。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明させて頂き、理解を頂いた上で契約している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者機関を設けていると共に広報誌の発送の際に意見を頂くような声掛けや意見を言い易い雰囲気作りに努めている。また、ご家族を行事にお誘いし、意見を頂くように努めている。	面会の際や敬老会などの事業所の行事の際に、職員がご家族からのご意見を確認するようにしています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや毎月のスタッフ会議にて話し合い反映させている。	スタッフ会議やカンファレンスの中で職員の意見を聞き、できるだけ反映させています。また、正規職員は半期に1度の評価面接や必要に応じて面接の機会を設け、不安や不満が生じないように対応しています。	今後は正規職員だけでなく、臨時・パート職員にも定期的に面接の機会を設け、意見や提案を率直に聞ける場にしていただけることを期待します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を取り入れており、半期ごとに評価を行い、目標設定し、向上心を持って働けるような環境となっている。ただ、臨時職員には人事考課を行っていないため、今後の課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて研修のカリキュラムが確立されており、経験年数等によって研修に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内に地域密着型部会があり、毎月会議を開催し情報共有や研修会を通じてサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話に真摯に耳を傾けている。また、今までの暮らしぶりをお聞きしたりご意向を確認し、ご本人を支援するよい関係づくりとなるべく努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話に真摯に耳を傾けている。また、ご意向を確認し、ご本人を支援するよい関係づくりとなるべく努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の事前面接の段階でご本人やご家族の意向を確認し、初期の段階よりご本人の求めておられるサービスの提供ができるように支援している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の持っておられる力やできる力を強みに捉えて日々の暮らしの中で、職員と共に暮らしを支えていただけるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族が一緒にご本人を支えていきましようメッセージを伝えている。また、職員善がりの判断をせずに、常にご家族に報告をしたり、相談させて頂いている。	事業所の広報や個別のお手紙を毎月送付し状況を知っていただいた上で、ご家族と一緒にどう支援していったらいいのかを考えていく場を作ってあり、一方的な考えを押し付けつけるのではなく共に考え、想いや支援のあり方を確認しています。外出の行事の際や敬老会にはご家族へ案内を送り参加して頂いています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもご家族や知人、友人が訪ねて来て頂く様に配慮している。今まで通っておられた床屋さんから来てもらい、散髪されている方もおられる。	ご自宅や理美容への外出支援やお盆の時のお墓参りなどご利用者の要望に応じ、馴染みの関係が継続できるようご家族の協力も得ながら支援しています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いの居室を行き来されたり、一緒に外出したり、リビングでの会話が自然とできるように配慮している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退去された後は他の施設へ入所された場合は面会に訪れる場合はあるものの支援はしていない。また、死亡された場合も多い。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりのニーズを把握するように努めている。言葉で表現できない方は普段の暮らしの中から表情、行動等を探りながら、職員間で検討して支援している。	日々の生活の中からお利用者の思いや意向を把握するように努めており、確認した情報や気付いた点はシートに記入し、計画に反映できるように努めています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしや、生きて来られた背景を職員が把握することは重要と考え、入居前にご家族やご本人からの情報を大事にしている。また、入居された後もあらゆる機会に捉えることができるように努めている。	入居前には自宅に訪問し、ご利用者の暮らしぶりや環境を確認しています。また、ご家族からアセスメントを行い、今まで生活されてきた様子や好み等の把握に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス時や日々の職員間で情報を共有している。(利用者の徹底事項連絡ノートの活用)		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と居室担当者が中心となり、ご本人の意向や状態を踏まえてよりご本人らしく生活して頂けるような介護計画を作成している。また、毎月担当者がモニタリングを行い、計画的に総括を行っている。	居室担当者が毎月モニタリングを行ない、3ヶ月に1度定期的に介護計画の見直しを行なっています。サービス担当者会議には、ご家族の方にも出席して頂きご利用者の意向やご家族の意向を尊重しながら話し合い計画を立てている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録用紙にはケアの実践や結果、気づきを記録し職員間で共有している。また、毎月、居室担当者がモニタリングを行い、定期的に計画作成担当者が総括を行い介護計画の見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	限られた職員の中で、ご本人やご家族のニーズを捉えなるべく柔軟な支援をするべく取り組んでいる。職員だけでなく、地域住民の方々やボランティアの力を取り込んでいく事が今後の課題である。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型施設であるものの、地域との連携はまだ途上である。小学校との交流や広報誌を通じて畑の耕作に協力頂いたり、ペットの日を設けて地域の方々との交流を始めたところである。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を確認し、受診に繋げている。協力病院へは定期的に受診しており、内科の掛かりつけ医の往診も一ヶ月に1回もしくは急変時に臨機応変に対応して頂き、支援している。	入居前からのかかりつけ医を基本として、受診や、月1回の定期的な往診と体調の変化時には必要な支援をいただけるようになっていきます。定期的な受診はご家族にお願いしておりますが、系列病院の受診支援は事業所で行なっています。	ご利用者の状態を医師に伝える情報提供票を活用し、より情報を共有できるように検討されることを期待します。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームでは常駐の看護師はいないが、グループ内の看護師に適宜相談し、指示を受けている。また、協力病院やかかりつけ医の指示も仰ぎ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院とは常に連絡を取り合い関係づくりを行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の支援は行っていない。代表者が認知症が進行されて重度となった場合は、対応できる施設への移行を考えるようにとの考えのため、入居された初めより、その旨をお伝えしている。施設移行の際は十分な話し合いを行っている。	ホームとしての重度化した際の対応を契約時にご家族に説明し同意を得ているほか、状況に応じてご家族と話し合いを行い方針を共有しています。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練については、年1回グループ内(母体)にて行ってる。限られた機会であるので実践力までは備わっていないと思われる。	母体施設にて年に1度、消防署職員によりAEDの操作や初期対応について学ぶ機会を設けており、職員の理解を深めています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、避難方法は身につけているが、職員の異動があり全職員までではない。地域の方々との協力体制は築いている途上である。4月に地域の方に避難訓練の実際を見て頂いた。	夜間を想定した避難訓練も実施し、近隣の方にも案内し、訓練の様子とホームの様子を見て頂きました。各居室にはヘルメットとライトを用意しており、災害時を想定した食糧の備蓄も事業所で確保されていました。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症という病気を持った一人の高齢者として、人として尊重した言葉かけや対応を行っている。	個人情報保護については法人で研修を行っており、ご家族から広報への写真の掲載の同意も頂いています。ご利用者への声かけや対応も、お年寄りを敬うように対応するようにと徹底しています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけているし、働きかけるように努めている。ただ、なかなか思いを表出できない人に対してあらゆる場面で支援できているかが、課題である。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた暮らしを支援するように努めている。9人の方一人ひとりの希望を全て支援できているかは共同生活介護の枠の中では困難であるが、職員の意識付けはできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を着ていただく、好きな髪型や髪の色等ご本人の意向を踏まえた支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各々の好みに沿った、また季節のものを取り入れたメニューにしている。力に応じて職員と一緒に調理作業を行い、後片付けも毎食後に一緒に行っている。	献立はご利用者と一緒に考え作っており、食事準備や片付けは出来る能力に応じ手伝ってもらっています。畑で育てた野菜の収穫と一緒に楽しんだり、外食の機会を設けるなどして食事を楽しんでもらえるよう取り組んでいます。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関してはグループ内の管理栄養士よりメニューの内容について報告を行い、チェックを受け必要時には改善している。その他支援はできている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて行っている。介助が必要な方、見守りが必要な方、一人ひとりの状態に合わせて行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録等で排泄パターンを把握したり、利用者の行動や仕草等観察し、必要に応じて誘導している。失敗にて自尊心を傷つけないような配慮や直ぐに紙パンツ等の使用に移行しないように配慮している。	必要に応じて排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンを把握しています。ご利用者の行動や仕草などを観察しながら個々に合わせた誘導をしています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の観察を行い、直ぐに薬に頼らないように食事や飲み物を工夫したり、十分な水分を取って頂くように配慮している。屋内や屋外での散歩や体を動かすレク等を取り入れ予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴はして頂いている。ただ、時間帯については9人の共同生活であるので、一人ひとりの希望に沿った入浴となるように心掛けていますが、果たして全員の方の希望を満たしているとは思えない。	一人ひとりの好みに応じた湯温や入浴方法に合わせて入浴していただいております。基本的には毎日入浴していただいておりますが、入浴を嫌がるご利用者には声かけのタイミングを模索するなど状況に合わせて対応をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの今までの暮らしが繋がるように環境を整え、安心して休んで頂けるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解と確認に努めているが、全利用者となると全職員がそこまでの把握は難しい。今後、全職員が全利用者の把握ができるように努めたい。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いを持って日々暮らして頂けるように、ご本人のできる力や持っておられる力を活かし楽しみに繋げて支援している。生活歴のみに囚われず、今の生活を楽しく頂けるよう無理のない範囲で支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく希望に沿うように支援している。日常的には戸外への散歩や買い物、また、季節を感じて頂けるようなその時々に合わせて少し遠方への外出を取り入れている。時には温泉や外食も楽しんで頂いている。	近くのスーパーに買い物に行ったり、公園へ散歩に行ったりなどの日常的な外出のほか、花見の時期には高田公園に行くなど、月に1回は外出を伴う行事も計画しています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本部の方針にて日常的にお金を持っていただいていない。ただ、お金を使うことを理解されている方にはお金を使う場面を支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話や手紙は自由にして頂いている。ご本人もご希望があれば好きな時間に電話して頂いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心して過ごしていただけるように一般家庭に近い環境となるように配慮している。また、時間や季節が判るように工夫している。	共有スペースは改装され、以前よりゆったりと生活できるようになりました。ご利用者と毎月一緒に作るカレンダーやご利用者の作品も飾られており、家庭に近い雰囲気がつられています。	より季節感を感じてもらえるよう、季節に応じた写真の掲示を行なうなどの対応を期待します。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた狭い共有空間であるが、利用者同士が交流できるようにソファの位置を工夫している。狭い空間のなかでも一人になれたり、お互いの交流が持てる空間づくりが今後の課題である。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は四畳半と狭いため、ベッドを入れておられる方は一段と狭くなってる。入居の際には使い慣れたもの等を持ち込んで頂くようお願いしている。居室担当者を中心にご家族とも協働してご本人がより寛げる空間となるように配慮している。	居室はフローリングと畳の部屋があり、選択できるようになっています。ご利用者の馴染みの物を持ってきて頂くように説明しており、ご利用者が居心地よく過ごせるようにしていただいております。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手狭な空間であるが、その場所がどのような意味を持った場所かがわかるように工夫している。		